

科目名		卒業研究 (Graduation Research)					
学年	学科(コース)	単位数		必修/選択	授業形態	開講時期	総時間数
第5学年	経営情報学科	履修	10 単位	必修	実験/演習	通年	300 時間
担当教員		【常勤】経営情報学科各教員					
学習到達目標							
科目の到達目標レベル	<p>経営・情報処理・経済・会計・数理などの分野から各教員が専門と学生自身の関心を元に研究課題を設定し、取り組むものである。そのため、研究課題の自主的・継続的な遂行を通じて、問題の発見能力や問題の解決能力、研究手法、共同作業の進め方などを体得する。また、各研究グループでの発表会や学科全体の発表会を通じて、プレゼンテーション手法や研究のまとめ方など学び習得する。</p> <p>(1)自主的に新しい情報や知識を習得し、課題への継続的な取組ができること (2)研究の目的を理解し、研究を計画して遂行し、結果を整理して解析できること (3)研究の目的・方法・結果・考察・結論等をまとめて、論文を作成できること (4)研究成果の資料を作成して発表し、説明・説得することができること</p>						
到達目標(評価項目)	優れた到達レベルの目安	良好な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
到達目標①	自主的に新しい情報や知識を習得し、課題への継続的な取組ができる。8割以上	自主的に新しい情報や知識を習得し、課題への継続的な取組ができる。7割以上	自主的に新しい情報や知識を習得し、課題への継続的な取組ができる。6割以上	自主的に新しい情報や知識を習得し、課題への継続的な取組ができない。6割未満			
到達目標②	研究の目的を理解し、研究を計画して遂行し、結果を整理して解析できる。8割以上	研究の目的を理解し、研究を計画して遂行し、結果を整理して解析できる。7割以上	研究の目的を理解し、研究を計画して遂行し、結果を整理して解析できる。6割以上	研究の目的を理解し、研究を計画して遂行し、結果を整理して解析できない。6割未満			
到達目標③	研究の目的・方法・結果・考察・結論等をまとめて、論文を作成できる。8割以上	研究の目的・方法・結果・考察・結論等をまとめて、論文を作成できる。7割以上	研究の目的・方法・結果・考察・結論等をまとめて、論文を作成できる。6割以上	研究の目的・方法・結果・考察・結論等をまとめる。論文を作成できない。6割未満			
到達目標④	研究成果の資料を作成して発表し、説明・説得することができる。8割以上	研究成果の資料を作成して発表し、説明・説得することができる。7割以上	研究成果の資料を作成して発表し、説明・説得することができる。6割以上	研究成果の資料を作成して発表し、説明・説得することができない。6割未満			
学習・教育到達目標	(A)③		JABEE基準1(2)		(d)-(1)、(g)		
達成度評価(%)							
(1)自主的に新しい情報や知識を習得し、課題への継続的な取組ができること	(1)卒業研究遂行のために必要な知識の獲得や、研究計画に関して作成した定期レポートで評価する		20%				
(2)研究の目的を理解し、研究を計画して遂行し、結果を整理して解析できること	(2)実験データ・資料・レポート等によって評価する		30%				
(3)研究の目的・方法・結果・考察・結論等をまとめて、論文を作成できること	(3)卒業論文によって評価する		40%				
(4)研究成果の資料を作成して発表し、説明・説得することができること	(4)卒業研究発表および発表予稿集によって評価する		10%				
指標と評価割合	評価方法	(1)レポート	(2)実験データ・資料・レポート	(3)卒業論文	(4)卒業研究発表会・発表予稿集	合計	
総合評価割合		20	30	40	10	100	
知識の基本的な理解【知識・記憶、理解レベル】		○	○	○	○		
思考・推論・創造への適用力【適用、分析レベル】		○	○	○	○		
汎用的技能【 】	◎ 課題発見	◎ 情報収集・活用・発信力	○ 論理的思考力	◎ 合意形成			
態度・志向性(人間力)【 】	◎		○				
総合的な学習経験と創造的思考力【 】			◎				

関連科目、教科書および補助教材	
関連科目	経営・情報・数理関連科目全体、経営情報研究ゼミ
教科書	
補助教材等	各教員が適宜指示する。また、学生自らが調査する。
学習上の留意点	
<p>1. スケジュール:(1) 研究準備(調査・予備実験など)(4月)、(2) 各種調査・実験・データ整理・解析・考察など(5月～2月)、(3) 卒業研究発表会(2月上旬)、(4) 卒業論文提出(2月下旬)</p> <p>2. 卒業論文:卒業論文は、所定の様式に従って作成し、定められた日時までに必ず提出する。</p> <p>3. 卒業研究発表:卒業研究の内容は、卒業研究発表会で必ず発表する。</p> <p>(1) 卒業研究発表会は原則として公開とし、学外者、教員および経営情報学科4、5年生の多人数を対象としてプレゼンテーションを行う。</p> <p>(2) 発表予稿集として、研究概要をA4用紙1枚にまとめ提出する。(3) わかりやすい表現でプレゼンテーションを行う。</p> <p>4. 各研究室およびテーマは「授業の明細」の通りである。</p> <p>5. 評価方法(1)のレポート作成は4月、7月、10月、12月を標準とする。ただし、研究室毎に提出時期を変更したり、提出回数を増やす場合がある。</p> <p>6. その他:(1) 指導教員との連絡を密にし、よく相談して研究を行う。(2) 学生間や各研究グループ間での議論を活発に行う。(3) 必要に応じて、中間発表会を行う。</p>	

授業の明細

具体的な行動達成目標

教員	研究テーマ
苗 馨允	1. 財務諸表に基づく量的企業分析 2. 有価証券報告書に基づく質的企業分析
内田 保雄	1. ビッグデータの可視化に関する研究 2. 教育支援システムの開発 3. オープンソース情報システムの研究
武藤 義彦	1. ニューラルネットワークを用いた時系列データ解析 2. Twitter テキストを対象としたセンチメント分析
松野 成悟	1. 企業間連携における情報ネットワークの役割の分析 2. ISアウトソーシングに関する理論的・実証的研究
田川 晋也	1. 語用論から見た財務会計システムの機能分析 2. 財務諸表情報の価値関連性分析 3. 会計基準設定者に関するネットワーク分析
荒川 正幹	1. 人工知能 2. 統計的データ解析 3. パズルプログラミング
二木 映子	1. E-Learningシステムの開発 2. データベースのデータ分析
挾間 雅義	1. SCIにおける最適性について 2. C・VBAを用いた経営・数理問題の検証 3. 経営工学手法を用いた最適性について
根岸 可奈子	1. 日系企業の国際的活動に関する研究 2. 日本市場における外資系多国籍企業の活動に関する研究 3. 特定の外国市場ないし地域に関する研究
岸川 善紀	1. 経営工学的手法を用いた地域活性化支援方策に関する研究 2. 品質管理手法を用いた品質改善に関する研究 3. サプライチェーン・リスク・マネジメントに関する研究
<p>総授業時間数</p>	<p>300 時間</p>